

阿蘇・鷲ヶ峰～震災後の爪痕～

【報 告 者】 I 藤

【日 時】 2017年7月23日 【天 候】 晴れ

【参 加 者】 O原 (CL) A・K (SL) T・K (SA) S上、ダニー、T上
(AD 会員外) O田 (会員外)、I 藤

《コースタイム》

車道へアピンカーブ 7:30-仙酔峡駐車場 7:45-関門 8:45-10:00 ガリー2-11:
00 ガリー3-ガリー4-α塔 11:20-西稜Ⅲ 11:40-鷲ヶ峰山頂 14:00-第二キレッ
ト 14:30-ナイフエッジ 16:00-高岳 17:00-仙酔尾根 17:45-仙酔峡駐車場 18:
30

《 報 告 》

北アルプスにむけてのトレーニングとして、阿蘇・鷲ヶ峰は、私にはしばらくチャンスが来ないままとなっていました。2016年の熊本地震の震災後に初めて参加させて頂きました。

まず、駐車場から、左方面に向かって、自分の背丈以上の藪の中をかき分けて進んでいきます。藪の足元には、登山道が隠れていますが、段差があるので、注意をしながら歩き進みます。鷲見平で写真を撮影



し、関門へ上がります。レリーフが目印である関門に到着しました。レリーフには「九州大学山岳部」と書かれてありましたが、肝心の人物像が剥がれていて、一体誰なのか不明です。

関門から左側にあがって行くと、ガリー2は落石多発地帯となって現われてきました。落石の速度と衝撃力を最小限にするため、そこでは前方者の真後ろにくっついて歩きました。ガリー2を過ぎ、右方向にトラバースをすると、通称、アトム岩が現われます。岩には○印のペンキが塗られていました。T上氏にステップを教えてもらいながら、脆い岩を崩さないようゆっくりクライムダウンで下ります。30分位進むと、3メートル程の高さの岩の前に到着しました。T上氏より、ハンマーで澄んだ音を響かせつつ、軟鉄のハーケンを打ち込んで頂きました。トップは、ハーケンにクイックドロウを掛け、ランナーを取り、数十メートル先まで、G3方面にフィックスロープを張ってもらいます。セカンドから順番に、ハーネスのピレイループに登高器をセットし、

アトム岩



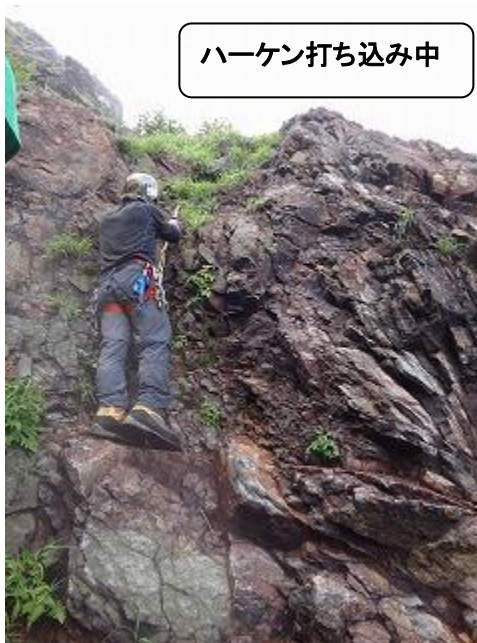
登攀しました。三番目の私は、右手にあったホールドを掴みました。二つの巨石がぐらぐら、浮き石だったとは・・・触ってしまった・・・と初めての感覚で、焦燥感に駆られました。すぐさま、下で待機している参加者には注意喚起をし、ぐらぐらの石を、落下させないようにおそるおそる上がり込みました。

アッセンダーを動かしながら、ペースを早めてガレ場を歩きますが、次第に勾配も強くなるので、引き続き落石にも油断は出来ません。フィックスロープの終了点手前にエイトノットがあり、そこでアッセンダーを外します。数メートル先で自己確保をし、メンバーが到着するまで水分補給をしながら待機しました。

メンバーは、注意を払いながらα塔付近の悪所を再び歩き始めました。α塔を過ぎた、西稜Ⅲからは、参加者8名、1+1、1+2、1+2とT上-A・K、O原-S上-I藤、ダニー-O田-T・Kの3パーティーに分かれて2.5ピッチと思われるガレ場や岩場をシステム登攀で開始しました。

岩は緩く傾斜しており、巨石のホールドもあるかと思いきや、やはり時々浮いていて落石しそうになりました。ここでも、静かに慎重に体重を預けます。2ピッチ目の岩場を少し下ると、右トラバースで終了点に到着しますが、数m手前は、片足半分くらいの歩幅で、斜面は脆く真下に切れ落ちていました。到着する手前であっても、気が休まりません。テラスに何とか無事に3人が揃いました。

ハーケン打ち込み中



頂上直下まではタイトロープコンテで進みます。草付きの岩場を登り始めた直後、「誰かいませんかー、ロープがスタックしたので、ロープを持っていますか？出してくださいー」とダニーさんからコールがありました。目の前にある草の根元の支持力を確かめ、スリングで束ねてタイオフし、カラビナを掛けました。次にザックからロ

山頂の道標



ープを出して、ビレイループにエイトノット、マストノットで自己確保をし、末端にノットとカラビナを掛け、3メートル程下にロープダウンをしました。ビレイデバイスのセットまで時間がかかってしまいましたが、ロープが届いたようです。再びコールがあり、ダニーさん自身は、テラスに到着したと察したので、一安心しました。

私は、ロープを速やかに解いてザックに収納し、コンテはそのまま、再スタートしました。

草付きの岩を、40分程上がりながら進み、ようやく山頂に到着しました。根子岳はもちろんの事、虎ヶ峰や龍尾根がすぐ真下に見えます。山頂の道標は、以前と違い、無残な形となって、斜め半分に折れてしまっていました。眺望は素晴らし

く、証拠写真の撮影を済ませ、ナイフエッジに向かいました。

手前の第2クレットでは、本日、初めての懸垂下降をします。三か所のハンガーボルトの支点到大きな三角形の残置ロープがあります。ロープは、こすれていて、毛羽立ちも目視出来ました。強度はもちろん不明です。自己ビレイ用と思われる捨て縄のロープもぶら下がっていて、エイトノットのループに自己ビレイを掛けました。真下に懸垂下降をし、着地した後は、下降器やバックアップスリングは、装着したまま、右に曲がりながら、テラスまで歩きました。落石が真下に直撃するので、先行チームは、数m先のテラスで待機していました。

次は1+1のタイトロープコンテとし、ナイフエッジを進みます。リーダーやサブリーダーは用心を重ねた判断の結果、コンテは解かずそのまま、さらにフィックスロープを張って、1ヶ所の突起した岩角にスリングとカラビナでランナーを設けて、アッセンダーを使用し一人ずつ通過しました。テラスで待っていた先行チームは、ロープの動きや流れ方、足場について、その都度声掛けの指示を頂き、絶えず注視して下さっていたので、私も含めて、メンバー皆無事に通過が出来ました。引き続き次のエッジにタイトロープコンテをしたまま、右にトラバース



ナイフエッジのコンテ&フィックス

をし、広範囲に崩壊している鋭く尖った大小の岩石を前列者に落とさないように降ります。尾根に上がる際にも、後続チームとの距離は、下方で隠れてもらうくらい離れた間隔をとりました。崩壊地も過ぎ、高岳頂上へようやく到着しました。

メンバー皆、安堵感いっぱいの気持ちで集合写真を撮り、月見小屋で水を汲み、仙酔尾根を下りました。仙酔尾根は、変化もなくゴツゴツした溶岩の上をひたすら歩くのですが、ルートには落石の心配がなかったので、危険も感じることはなく、最後に私は恐怖心もなく無事に下ることが出来ました。

鷲ヶ峰は、無数の浮石や枯れ木が多い場所で、強度なプロテクションをセットしながら、墜落しない安全な確保支点の設置がとても重要になってくると考えられます。トップは、豊かな経験や応用の技術が求められるのだと痛感いたしました。初回の私は、セカンドでロープに沿って登っていましたが、それでもなお、岩の状態や支点の位置の登攀ラインを観察するのに時間がかかっておりました。

アルパインの経験がまだまだ浅い自分ではありますが、細心な配慮を下されたリーダーやサブリーダーはじめ、参加者の皆様に、深く感謝いたします。

以下、ヤマレコもご参照下さい↓↓

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-1205703.html>